



ふじ美が原

富士見中学校

平成23年10月14日

前期終業式

生徒代表意見発表

前期を振り返って

一年二部 窪田 貴明君

ついに、今日で前期が終わります。前期を振り返って特に印象に残っていることが二つあります。

一つは、ぼくのクラスである一年二部のことです。ぼくは、入学した頃と現在を比べてみました。入学した頃のぼくたちのクラスは、今のように団結していません。知っている人だけの集団を作っていました。しかし、一年二部の生活が続くと、だんだん少しずつ、クラスは団結していききました。そして、今は、団結力のある、いいクラスになりました。クラスが団結することができたので、白鈴祭の展示や体育祭の準備がうまくいきました。特に、体育祭の大縄跳びでは、みんなで協力することができたので、練習では十四回しか跳べませんでした。本番では、二十八回、つまり、練習の二倍も跳べました。一年間だけのクラスなので、この団結力で後期もがんばってきたいと思います。

二つ目は、部活動です。前期では、いい成績を残すことができませんでした。この前の中体連の個人戦では、一年生の部で優勝することができました。優勝できたのは、日々の練習の成果だと思っています。テニス部は、毎日、藤原先生、名取先生の指導のもと、一本打ちやボレー練習をおもに練習しています。後期でも更に上達できるように毎日の練習を積み重ねていき、後期でも賞を取れるようにがんばります。

以上が、前期を振り返って印象に残っていること

ることの二つです。

来週から後期が始まりますが、良くできたところは継続し、できなかったことをできるように努力したいと思います。

前期を振り返って

二年四部 櫻本 李枝さん

私が二年前期で心に残っているのは、白鈴祭です。先輩方が創ってくださった白鈴祭は、とても素晴らしいものでした。その中でも、私の心に特に残っているのは、体育祭の大縄です。

私のクラスは、最初の練習でも縄に引つかかる人が多く、なかなか記録を伸ばすことができませんでした。けれど、体育祭当日、最後の練習の時、今までにない好記録を出すことができました。本番の結果は、あまり良くなかったですが、クラスの絆は深まったと思いました。

この白鈴祭を通し、私が思ったことは、クラスの団結力の大切さです。何か一つのことに向かって全力を出せる、そんなクラスに在籍できたことは、私にとって、とても良いことです。

後期もこのクラスメイトとともに、合唱祭や生徒会活動がんばっていききたいと思います。

また、来年の白鈴祭も今年のように、全校の皆さんが一丸となり、楽しめるような白鈴祭にしたいと思います。

前期を振り返って

三年三部 樋口 諒太郎君

三年生になって、もう半年が経ち、今日で前期が終了します。前期には、修学旅行や文化祭があり、僕たちにとっては、その一つ

つが最後の行事でした。

部活動。一年生から目標に向かってひたすら練習をし、大会では、全力を出して戦いました。試合に勝った時の喜び、負けた時の悔しさや悲しみを仲間と共有し、そして、引退の日が来ました。

白鈴祭。生徒会最大行事である白鈴祭。全校ダンスを踊ったり、体育祭で大縄跳びなどに全力で取り組んだりしました。また、男子副会長として、計画を立てたり、ドラマを撮ったりしました。この準備がかなり大変でした。白鈴祭に対してすごく不安がありました。が、当日、白鈴祭ではアクシデントもなく、無事、成功させることができました。

部活動、白鈴祭の他にも、前期には様々な行事がありました。そのような行事が無事に行えたのは、支えてくれる人がいたからでした。部活動の仲間や保護者の方々、全校の皆さん、先生方。様々な人たちが自分たちに協力してくれて、良い生活ができ、良い思い出ができました。ありがとうございます。

これから後期が始まります。この後期では、このように自分たちを支えてくれている人たちのことを忘れず、感謝の気持ちを持って生活していきたいと思っています。



全校表彰

- ・小池あかりさん
(南信英語弁論大会1位)
- ・野球部(中部日本県大会優勝)
- ・カテザ・ニャーシャさん
(小諸藤村文学賞優秀賞)

「天は苦心の人に

背かず」

校長講話

今、一年生代表の小池康平君は、「後期に向けて三つの目標をたてました。部活動では、新人戦の悔しさをバネに、集中した練習で力を付けたい。学習では、前期目標に届かなかったので、更に努力したい。また、クラス替えまでに、団結力を更につけた最高のクラスにしたい。」と語ってくれました。

二年生代表の小松真佳さんは、「この一〇一日の後期、はっきりとみんなの前で自分の意見が言える、また、面倒なことを後回しにするようなことがない様、自分に甘くならない生活をしたい。」と語ってくれました。

三年生代表の中山晴木君は、「受験、卒業が間近に感じられる中学校生活最後の半年となった。一步一步当たり前の日常を大切にしたい。『塵も積もれば山となる』を実践したい。それは、自分自身の未来の扉を拓くことになる。」と語ってくれました。

また、小池あかりさんの英語による素晴らしい意見発表がありました。この、十五日（土）に行われる、県大会に南信地区の代表として出席をします。更に、表現力に磨きをかけて臨み、発表できればと期待しています。全国大会も視野に入れて頑張ってください。

それぞれ後期の生活に向けての決意を述べてくれました。是非、具体的な実践を通して、それぞれの皆さんの目標が達成出来るように頑張ってください。全校

の皆さんも、それぞれ自分自身もつている目標が達成できることを期待しています。

さて、目標をもつて、その目標を達成するために、当然、自分自身が動かなければなりません。「棚からぼた餅」という気持ちをもつた生活では、目標は達成できないと思います。自分自身が目標に対して動き出すということは、当然努力のいることです。苦勞も伴います。しかし、努力したり苦勞したり辛いことをした、そういう経験は必ず皆さんのいい成果に結びつきます。苦心しないものは、いつか奈落の底にいくかもしれませんが、苦心して苦勞した人は必ずや報われると思います。「天は苦心の人に背かず」です。

三年生の皆さんは、中心となって引張ってきてくれた生徒会等のまとめと共に、自らの可能性を信じて、今日より明日、明日よりあさつてと、日々進化する確かな力をつけながら、半年後に確実にやってくる卒業の日のことを意識し、二年生の皆さんは、引き続きいだ部活動をはじめとして、これから引き継いでゆく生徒会の活動を通して、やがてくる富士見中学校の最上級生になる日のことを意識し、一年生の皆さんは、前期をもう一度しっかりと見返し、生活の具体的な軌道修正をして、来るべき中堅学年としてふさわしい資質を確実に身に付けるよう意識し、過ごせればと願っています。

十八世紀のドイツの哲学者のカントという人は、「人間は本来善であるけれど、油断すると悪になる」といっています。私たち人間には弱さがある、いつも悪い誘いがあちらこちらから近づいてきます。この誘惑や欲望に負けずに、自分の目標を実現したり、志を遂げるには、「自分に打ち克つ」「努力をして欲しいと思います。後期、「自分に克つ」このことをお互いの課題としていければとも思っています。

今日から後期が始まります。

前期では、生活面で色々なことを頑張りました。例えば、毎日の家庭学習や、提出物等の期限を守るなど頑張ってきました。他にも部活への参加や普段からのあいさつなども頑張ってきました。僕は前期以上に後期をさらに充実させていきたいです。

そのための目標が僕には三つあります。

一つ目は部活です。先日行われた僕の所属する野球部の新人戦では、僕も出場させてもらいましたが、思うようなプレーができなくて負けてしまいました。とても悔しい思いをしたので、これからの練習を今まで以上に集中していきたいです。

二つ目は学習です。後期では、大きなテストが二つあります。前期では自分の目標に届かず、もう少し勉強をしなければと後悔するばかりでした。このことを活かして毎日の家庭学習や、学校での授業に集中し万全な体制でテストに臨める様になりたいです。

三つ目にクラスです。前期での体育祭の大縄跳びでは、クラス全員が団結してクラスのベスト記録更新と、三十一回跳び、全校一位という成績をつくり上げることができました。この調子で十二月にある合唱祭ではクラス全員で一つの声をつくりあげて最高の合唱を目指していきたいです。僕達一年三部では「一人一人が何事にも一杯の力で」というクラスを目指しています。そのことを合唱を通してもしっかりやっていきたいです。

これらの目標を大切に、後期も仲間と楽しみながら、さらに充実した生活をしていきたいです。

そして、僕たち一学年は三月にクラス替えがあります。それまでにクラスでの思い出や、絆を深めて最高のクラスになってクラス替えをむかえたいです。

クラス替えが終わると四月から二年生になります。新しいクラスになり、後輩もできて先輩になります。二年生になると今まで以上に忙しくなると思うので、「」の後期からしっかりと二年生になる心構えをつくっていききたいです。

富士見町立富士見中学校
諏訪郡富士見町富士見4654番地
TEL 0266-62-2009
FAX 0266-62-7409
伊藤十三雄

